

特集：ラテンアメリカの都市問題

ホンジュラスの凶悪犯罪集団マラス

望月 博文

はじめに

2012 年 2 月 14 日にホンジュラスの首都テグシガルパから北 50 kmにあるコマヤグア刑務所で火災が発生、収容囚人 852 人（定員 500 名）のうち 357 人が死亡し、囚人が何人か逃亡したが、その実数は定かではない。出火の原因は受刑者の放火、死者が多かった原因は、看守が収容施設の扉を開けるのを故意に遅らせたと報じられた。UNODA の統計によると、ホンジュラスは故意殺人により 2011 年に 7,104 人、人口 10 万人当たり 91.6 人が殺され世界一である。都市別ランキングでは、サンペドロスーラが世界一位（同 158.87 人）、首都テグシガルパが世界五位（同 99.69 人）と高い危険度を示す。ホンジュラスにおける多くの事件は、ここ 15～20 年で急激に拡張したマラスと呼ばれる犯罪組織が関与している。

米墨戦争敗北以来、米国南部にはチカノスと呼ばれるメキシコ系住民が多く住んでいた。その中からロサンゼルスに犯罪集団パチューコス（Pachucos）が生まれ、18 番街を縄張りとするマラ 18（Mara18、M18）が派生した。90 年代になると、エルサルバドル内戦を逃れてきた元警察官や元兵士を核に、13 番街を縄張りとしてマラ・サルバトゥルチャ 13（Mara Salvatrucha 13、MS13）がメキシコ系犯罪集団に対抗して組織された。しかし米国における経済の陰りと共に移民排斥運動がおこり、1996 年「移民責任法」が成立、多くの不法移民犯罪者が強制送還された。米国帰りの犯罪者は、戦乱・貧困・家族崩壊により街にあふれた人々を

吸収、ロサンゼルスでの所属に準じて、祖国でマラスを組織した。その成り立ちからマラスは、米国ロサンゼルスで発生、中米諸国で拡大した犯罪組織であり、M18 と MS13 という 2 つの対立する組織に分けられる。

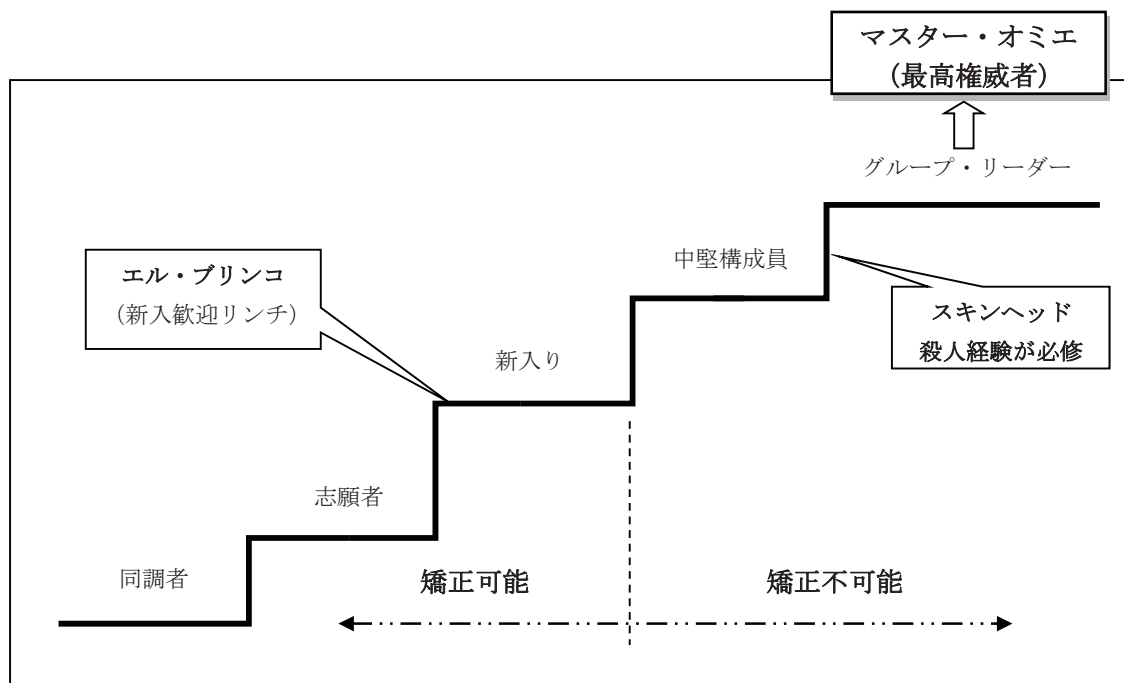
1. マラスへの道

ホンジュラスでは、内戦もなく 1982 年、平和裏に軍政から民政移管された。順調な政権交代のようだが、軍部の影響・寡頭勢力・外国資本が温存された。一見、民主主義的に運営されている「任期 4 年・再選禁止の大統領制」も、「長期政策が立てられない」という欠点があり、結果、長く不平等な所得分配が続き、貧富の格差が拡大した。許可があれば 1 人ライフル 5 丁、ピストル 2 丁まで所有できる銃社会であり、中米紛争の影響で大量の不法銃器も存在する。教育の不備、特に生活の基本となる家庭教育がなされていない。若年女性の妊娠、シングルマザーが多く家庭崩壊が進み、1995 年に徴兵制が廃止され、無職の若者が街にあふれ犯罪が多発した。

路上で暮らす子供たちにとって犯罪組織は、擬似的であれ「家族」となり、快楽に満ちた生活が送れ、悪行であるが自分を必要とする社会である。マラスの同調者・支持者は 40 万人以上、その中から子供に目をつけメンバーに仕立てる。志願の子供たちは、「バンデラ（旗）」と呼ばれ、「警察が来た」「盗みがあった」など縄張り内の出来事を報告し、1～2 年メンバーと行動を共にする。そして構成員からの紹介、承認、

入会儀式(プリンダール)を経てマラスに入会、以降、マラス中心の生活になり、仕事(犯罪)を学ぶ。この期間は2年以上続きグループの集会に参加できるが、意見を述べ異議を申し立てることはできない。まだ自宅に住む者もあり、警察でも矯正可能期とみている。中堅構成員になると家族との絆を完全に断ち、危険な活動に従事する。この時期に達した者の矯正は不可能とみられている。中堅になり5年くらいで、腕・頭にまで刺青を入れ、犯罪者として強大な力を

持つグループ・リーダーになる。その中から、大都市や国の代表、国際レベルのリーダー「マスター・オミエ」が生まれる。彼らは、公衆の面前に姿を現すことなく、常に多数のガードマンに守られている。また、トリブナ紙特集(2009/4/20~22)において、熱狂的サッカーファン(バラス)の中にマラスの予備軍的活動をする組織があり、「マラスはバラスを麻薬販売に利用」、警察の防犯冊子でも「バラスはマラスの始まり」と青少年に訴えている。



注：矯正可能か、不可能かの見解は、国家防犯警察(DNPP)の資料に基づく。

出典：Sánchez Gustavo (2008) および DNPP 資料をもとに、筆者作成

2. 犯罪組織マラス

絶対服従の組織であり、それぞれ厳格な規律を持つが、「組織への忠誠」「縄張りの尊重」「対抗組織との戦い」「裏切りへの制裁」「集会への出席義務」などが共通している。マラスは、象徴主義的・セクト的・閉鎖的な犯罪組織である。

① 刺青(タトゥー)

組織帰属の高さを示し、所属団体、組織内のランク、通り名、殺された仲間の名前、殺した

数、宗教的なものなどが書かれおり、所属組織から消すことを厳禁されている。2002年マドゥロ政権の刑法第332条(対マラス法)改正により、顔・頭など人目に触れる処への刺青は禁止された。全身刺青のマラス写真があるが、彼らを街中で見かけることはない。

② ハンドサイン・マラス文字・落書

A~Zの文字・数字などもあり、声を出さずに、ハンドサインだけでの会話も成り立つ。街

の壁に描かれている絵や落書きは、そこを活動拠点とするマラスの縄張りの範囲を示し、ライバル・グループに対しての意思表示であり、M18 は黒色、MS13 は青色と好みを持つ。また、絵の中には歴代リーダーの名前、死んでいった仲間の名前、グループの業績・主張、集

会の場所などが描かれている。これらの絵・落書きの中に、ビラ (wila) と呼ばれる独特な文字が使われることがある。それら文字は、アルファベットの ABC に対応し、グループ内での秘密の連絡、刑務所からの秘密指令などに使われる。

MS13 のビラ : スペイン語アルファベット「ñ」に相当するものがない。

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
☼	Ω	Π	⚡	Π	♂	η	≈	H	er	&	●	○	■
Ñ	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	
	□	□	□	□		◆	◇	✱	♦	⊗	⊗	⊗	

M18 のビラ

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
△	φ	<	▽	#	m	+	d	⊗	%	●	'6	>	///
Ñ	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	
///	///	□	◆	◇	o/o	%	%	+	+	+	///	v	

(出典) Manual del curso de investigación de delitos cometidos por maras. Guía del participante. Departamento de Estado de los Estados Unidos de América. Junio 2006

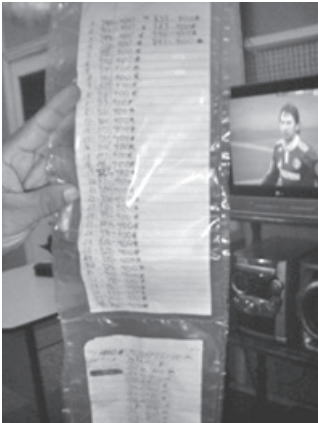
③ ヘアスタイル・服装・歩き方

グループにはスキンヘッドの者が多く、M18 には短髪の若者が多くいた。服装は、米国の若者文化、Hip-Hop 音楽などの影響を受け、大きなサイズの服装、ブランドのスニーカー、キャップを好む。また肩を揺らし、肩越しに後方をチラッと見るトゥンバード (tumbado) と呼ばれる歩き方をする。

3. マラスの経済活動

ホンジュラスは、南米麻薬生産地帯から消費地米国への流通ルート上にあり、空輸中継地として簡易飛行場がグラシアス・ア・ディオスのジャングルにあり、カリブ海では、麻薬運搬船

や潜水艦拿捕のニュースが新聞に載る。国内においては麻薬販売網が確立され、ビリヤード場、クラブなど若者の集まる場所はもちろんのこと、路上の売店でも売られている。コマヤグアのパルメローラ基地とカリブ海のグアナハ島に、米軍は麻薬対策基地をもつ。レンタは、日本でいう「ショバ代」であり、縄張り内で営業する店舗・露店、営業拠点を持つバス・タクシーから毎週定額集金する。筆者の調査 (2011 年 3 月) によるとバス 500 レピラ (2,500 円)、タクシー 200 レピラ (1,000 円) であり、日付・車両番号などを台帳に記入し集金を管理、支払いを拒否すればその場で撃たれ、殺される。



集金台帳 (2011/2/2)
(筆者撮影)

企業に対しては「戦争税」を集金しているが、その詳細は定かでない。営利誘拐は、政治家・富裕層などが対象となり、高額な身代金を要求する。犯行は金銭目的だけであり、身代金が払われれば解放され、まごつけば直ちに殺される。最近多くなってきたのは、医者・企業家など「中程度の金持ち」を対象とする誘拐であり、身代金は日本円で1,000万円くらい、直ちに支払わ

れる程度の金額を要求する。犯行グループは組織的に活動、計画的に実行する。被害者も金銭を払い無事であれば、報復を恐れ警察に届けることなく、事件を公言することもない。組織力を使い対象を調査し、計画的に実行する属託殺人が重要なビジネスになっている。最近、麻薬や遊ぶための金欲しさに安く殺害を請け負う者もあり、殺人実行犯には、児童保護法・少年法で守られ、刑罰を免責される子供が利用されることもある。

4. 相対する警察・司法

現在、ホンジュラス国家警察は、安全省 - 国家警察統括本部のもと、警察官総勢約 14,000 名である。同じような制服を着て街に出ている県警察の警察官は、県条例にのっとり街の環境整備や秩序維持に努める警察であり、犯罪調査権・逮捕権はない。

ホンジュラス警察組織図



DNIC : Dirección Nacional de Investigación Criminal

DNSEP : Dirección Nacional de Servicio Especial Preventivo

DNSEI : Dirección Nacional de Servicio Especial Investigación

県警察 (Policía Municipal) : 条例にのっとり環境・秩序維持に務める警察で、犯罪調査権は無い。

出典 : 捜査警察署長マルコ・トゥリオ将軍へのインタビューを基に筆者作成。

交通警察は約 2,000 名、首都のミラフローレス地区にある本部は、自動車免許所発行や交通事故に対応し、交通裁判所が併設されている。防犯警察は、一般の警察業務を担い、7,000～8,000 名の警察官が所属する。交通警察と防犯警察が日常的に目にする制服警官であり、合計 1 万人に満たない。犯罪捜査警察には約 1,500 名の警察官がいる。約 1,000 名がテグシガルパとサンペドロスーラで活動、残りの人数で残り全土をカバーする。国家特殊防犯警察は、約 1,000 人の警察官によって 11 カ所の国立刑務所と 13 カ所の刑務センターで約 13,000 人の犯罪者を収容している。1996 年以前、未成年犯罪者収容施設への国家政策は無く、大人の刑務所に収容していたが、現在、少年院が 3 カ所ある。服役中、識字教育や家具製作・機械加工などの職業指導を時折おこなうが、本格的な矯正教育は実施されず、刑務労働もない。収容者数は定員をはるかに超え、刑務所は犯罪学校化している。空港や国境警備を担う特殊犯罪捜査警察と警察学校に、それぞれ警察官 500 人が配備されている。

司法は、警察が被疑者を逮捕しても 48 時間以内の検察送致、検察における 24 時間以内の起訴決定と時間が少ない。警察官の証拠収集能力が低く、証拠による立証中心の公判維持は難しい。裁判は 2 審制非公開。1 審は、商法裁判

所と刑法裁判所があり、2 審は高等裁判所が担う。最高裁判所は、国家犯罪・国際犯罪を扱う法廷である。警察力が弱く、かつ法曹関係者の人数が少なく、司法制度が十分に機能していない。結果、罪を反しても罰せられない無処罰 (impunidad) 状態になっている。

おわりに

マラスは、縄張り単位で活動し、特異な言語・刺青などを好む閉鎖的犯罪組織である。M18、MS13 の 2 つのグループがあり、敵対する者は見せしめのため残忍に殺害、あらゆる犯罪を計画的・組織的に遂行する。コカイン流通の中継地点として、メキシコやコロンビアの犯罪組織には、自国での取り締まりからの避難地として、警察力の弱いホンジュラスが重要視されている。マラスは、すでに国内に麻薬販売網を確立し、中南米・ヨーロッパ諸国、カナダ・米国 34 州で活動を確認されている多国籍犯罪組織であり、すでに国・地域単位では解決できないほど強大化してしまった。マラス問題をテーマにした中米会議も開かれているが、解決には、より広範囲な国際協力が必要である。

(もちづき ひろふみ

名古屋大学大学院国際開発研究科)